

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 格差に挑み、生徒の希望と誇りを育むチカラのある学校になろう
- 1 西成高校は格差に挑み、それを克服する学校でなければならない
 - 2 西成高校は生徒の誇り、地域の誇りとなる学校になろう
 - 3 西成高校は生徒の希望と未来を与える学校になろう
 - 4 西成高校は社会に貢献する人材を育成する学校になろう

2 中期的目標

1. 学校改革の取り組み

- (1) 平成 27 年度エンパワーメントスクールへの改編にむけて「新たな学校づくり」を推進する。
- ア 「わかる喜び」「学ぶ意欲」を引き出すため「学びなおし」学習を含めた基礎学習の定着をめざしてのカリキュラム充実を進める。
- イ 学校生活をサポートし卒業にしっかりつなげるようスクールソーシャルワーカーの配置など生徒支援の充実を進める。
- ウ 平成 25 年創立 40 周年を記念に「校訓」〈一、礼節を重んぜよ 一、責任をもて 一、親切であれ〉を定めた。この校訓を学校教育のモットーとして生徒、保護者、教員、地元地域が一体となって学校改革、生徒支援の充実を図る。
- エ 平成 26 年度末までに新制服を定め、平成 27 年度入学生より導入する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目、平成 26 年度肯定感 75%をめざす

2. 進路を切り開く確かな学力の育成

- (1) 西成高校の生徒実態を踏まえた、「めざす西成高校授業像」を確立し授業力向上を図り学力の定着をめざす。
- ア NAC（西成一步前委員会）が中心となって、授業アンケートを活用した授業改善に積極的に取り組む。また、授業研究・授業改善に対する校内研修体制づくりのため活用した大阪府教育センターとの連携による「パッケージ研修」の経験を活かしての「西成授業改善プラン」を策定する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 25 年度肯定感 61%から 70%をめざす
- (2) 進路指導年間計画を充実させ、チャレンジ（総合的な学習の時間）やLHR等を連動させてキャリア教育、人権教育、総合的な計画を立案する
- ア 平成 27 年度からの総合学科への改編も含めて、以前より取り組んできたチャレンジでの取り組み（半貧困学習等）をさらに充実・発展させて「産業社会と人間」の研究を進め3年間を見通した進路指導計画を策定する。
- イ 地元中小企業家同友会・Cステップ等外部団体との連携及び人材を活用して、主体的に進路選択ができるよう様々な機会を設定する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 25 年度肯定感 71%から 80%をめざす。
- また、学校斡旋就職決定率を 100%めざす。

3. 規律・規範の確立と豊かな心の育成

- (1) 生徒が主体的に規範意識やモラルや「命を大切にする心」の醸成を高める取り組みを組織的に推進する。
- ア 「自分に厳しく、人にやさしく」！他人をおもいやり、公共のマナーやルールを守るなど規範意識の醸成を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目で平成 25 年度肯定感 57%から 70%をめざす
- (2) 学校行事や部活動を通じて、生徒間、生徒と教員間のつながりを深めて互いに信頼し尊重できる人間関係の構築を図る。
- ア 生徒会活動、学校行事、部活動など生徒の自主的活動の取り組みを活性化させる。特に部活動は重点的に活性化させる。
- ※平成 25 年度部活動の入部率 20%から平成 26 年度 30%をめざす
- (3) 人権教育、シチズン教育を充実させる
- ア 人権意識のさらなる向上を目的に、平成 27 年度からの総合学科への改編も含めて、3年間を見通した人権教育推進計画を策定するとともにシチズン教育を確立する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切にし、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 25 年度肯定感 71%から 80%をめざす

4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり

- (1) 地震や津波対策を含めた防災計画の見直しを図り、危機管理体制を再構築する。
- ア 地震や津波に対する新たな行動マニュアルを策定し、生徒が自らの命を守る「主体的に行動する態度」を育成する防災教育を推進する。
- (2) 生徒支援（教育相談）体制を一層充実させ、生徒・保護者に対する支援活動ができる体制を充実させる。
- ア 西成高校の生徒・保護者の実態を踏まえ、課題を抱えた生徒や保護者に対して、スピード感をもって適時・適切な指導體制の確立と地元地域団体・福祉施設・他の行政機関・NPO 法人などとの連携協働体制をつくる。
- イ 毎月一回開催されている地域のケース会議や連絡協議会に今年度も継続して参加し、情報を共有しての支援を強化する
- ※生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成 25 年度肯定感 57%から 70%をめざす
- (3) 広報活動を活性化させ、地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。
- ア 中学校等への広報活動を充実するとともに、本校に対する要望や評価を把握して改善につなげる。
- イ 地元中学校との連絡協議会の開催を継続し充実させ、連携を深め生徒理解を促進する。
- ウ ホームページの更新スピードをアップさせ、中学生や保護者への情報発信を強化する。本校生徒や保護者に対しても学校メールマガジン等充実させて情報発信を充実する。
- エ 平成 26 年度第 8 回を迎える地元小中学校と連携した「西成教育フェスタ」をさらに充実させ西成区地域社会教育力向上をめざす。
- ※平成 26 年度学校教育自己診断で「西成高校はホームページで情報伝えている」保護者の肯定感 70%をめざす。

5. 学校運営組織の再構築

- (1) エンパワーメントスクール（総合学科）への改編を見据えた学校運営組織を再構築する
- ア 校務分掌体制の再構築については、機動的な分掌業務推進を目的に 8 分掌を教務グループ、生徒指導グループ、進路指導グループ分掌に再編して下部組織として保健部・人権教育部等 6 分掌体制に整えて実施する。また、役割分担・責任・権限を明確にする職務体制を確立する。
- ※1~4 までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率 10%未満をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1 学校改革の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向けにおいて「学びなおし」のカリキュラムや体験型の授業の重視など ES としての、新しい取組みは必要である項目については、昨年に引き続き 70%の肯定感があり、教員も一丸となって取り組んだ。 ・トイレや廊下・階段などの教育環境の美化については、昨年度に引き続き教員向け、生徒向けともに肯定感が 30%以下であり、西成クリーン Day など設定して取り組んだものの肯定感向上にはつながっていないので抜本的な改善が必要である。 ・「西成高校に入学して満足している(生徒)」では、H25 年度 2 年 58% から H26 年度 3 年 74%と肯定感が向上した。西成高校の粘り強い寄り添う教育の成果と考える。 <p>2 進路を切り開く確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学期の授業アンケート結果や西成授業改善プランを基本に 10 月から 11 月に教員相互見学週間や他校への見学を促し研鑽を高めた結果、生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 25 年度肯定感 61%から平成 27 年度 70%に達した。 ・チャレンジ(総合的な学習)時間や LHR の充実と中小企業家同友会等の外部団体との連携強化の結果、生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 25 年度肯定感 71%から平成 27 年度 80%に達した。また、1/23 現在学校斡旋就職決定率は教員全体の協力により応募前職場見学参加者のべ 250 名参加企業 150 社の結果 97%につながっている。 <p>3 規律・規範の確立と豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員全体での登下校時の自転車マナー指導、生徒会・部活動部員による早朝挨拶運動により、自転車の二人乗りなど激減した。生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目で平成 25 年度肯定感 57%から平成 26 年度 1 年生は 70%に達成した。 ・ユニバーサルデザインと人権教育の充実と教員間外部機関との連携の結果から生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切に、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 25 年度肯定感 71%から 80%を達成した。 <p>4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の一元化、となりカフェ等の外部団体との連携強化及び迅速な課題や支援対応によって生徒相談体制が充実した結果、生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成 25 年度肯定感 57%から 68%まで達成した。 	<p>第 1 回 (6/13)</p> <p>○H26 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営計画がわかりやすく刷新されたので、それぞれの部署で計画案に沿って一丸となって取り組んでほしい。 ・H27 年度よりの改編に向けて、今まで以上に教育委員会と連携を図って進めてほしい。また、入試倍率 1.1 倍めざして広報もがんばってほしい。 <p>○生徒の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生アンケート(生徒実態の背景)から、例年以上に課題の多い生徒の入学がうかがえるが、地域や出身中学校と連携を深めて支援してほしい。また、地元中学校や地域団体も応援する。 ・38 期生(26 年 3 月卒業)の進路状況は 7 割就職で例年と変わらない。また、39 期生もほぼ同様の数値になるとのことだが、中小企業家同友会も頑張るので、学校斡旋就職率 100%めざしてほしい <p>第 2 回 (10/18)</p> <p>○エンパワーメントスクールへの改編に向けての進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会との連携による広報ビデオや学校説明会と同様の説明を受けたが、理解しやすく丁寧である。西成は生徒が全面に出て説明するのが素晴らしい。12 月の新聞発表を楽しみにしている。 <p>○授業見学から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べて落ち着きが見られる、特に「携帯電話」を触っている生徒がまったくみられないようになったのは大変良い。 ・先生方は一生懸命授業に取り組んでおられるが、空席が多いのが気になる。 <p>第 3 回 (1/23)</p> <p>○ES 改編に向けての状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日の報道もあったように、210 名募集のところ 231 名の希望調査結果は、広報活動や地元中学校の理解と考えるが、校長からの報告もあったが、1 月 24 日開催予定の学校説明会も気を抜かず頑張してほしい。 <p>○学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の学力検査と同様で、年度によって生徒状況は変わるので、このように同じ対象で経年変化を図るのが良い ・アンケートの回収率については、保護者の回収率が低いことに対して懇談時に記入してもらうなど工夫はわかるが、もっと回収してほしい。また、教員は 100%が当たり前ではないかと考える。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校改革の取り組み	<p>(1) 平成 27 年度エンパワーメントスクールへの改編にむけて「新たな学校づくり」を推進する。</p> <p>ア「学びなおし」学習を含めた基礎学習の定着を目的にカリキュラム充実を図る。</p> <p>イ SSW の配置など生徒支援の充実を進める。</p> <p>ウ創立 40 周年を記念に定めた「校訓」をモットーとして、生徒支援充実を図る。</p> <p>エ 新制服を定め、平成 27 年度入学生より導入する。</p>	<p>ア、イ 平成 25 年度校内 PT を総合学科部に分掌化させて改編準備に取り組んできた。さらに本年度は平成 27 年度改編に向けて、教育委員会 PT と共同して、予算編成・カリキュラム編成・施設のリフォーム等具体的準備を行う。</p> <p>ウ 学校行事での入学式などの式典や各学期の始業式などで折に触れ生徒・保護者・地域の方を始め、ホームページなどで発信する。</p> <p>エ 平成 25 年度より新制服検討委員会を立ち上げ業者選定やデザイン選定等進めている。また、平成 25 年度内にデザイン選定を確定して平成 26 年度 5 月には、広報用新制服チラシをつくり中学校訪問で活用する。</p>	<p>ア、イ 生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目、平成 25 年度肯定感 60%から平成 26 年度肯定感 75%をめざす。</p> <p>ウ 教員向け学校教育自己診断における「校長は自らの教育理念や学校運営について考え方を明らかにしている」平成 25 年度肯定感 81%を平成 26 年度 90%めざす。</p> <p>エ 平成 27 年度入学生に対して生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目肯定感 75%をめざす。</p>	<p>ア、イ再構築した校内体制と教育委員会改編整備課との連携から、何とか入試体制とカリキュラム編成は間に合ったが、予算編成や施設のリフォームなどは遅延状態にある。在籍生徒指導においては、SSW の配置やとなりカフェ事業や外部団体との連携強化から課題のある生徒や配慮を要する生徒指導の迅速な対応ができてきているが、具体的指導によって中退防止につなげたい。*26 年度肯定感 75% (○)</p> <p>ウ、始・終業式をはじめ行事等で折に触れ生徒に話してきた。また、2 学期終業式で校歌指導を導入し母校愛の醸造につなげた。生徒全体で自尊心の向上に引き続きつなげたい。*26 年度肯定感 80% (△)</p> <p>エ、平成 27 年度入学生よりの新制服が完成した。広報にも活用でき、今後の着こなし指導を含めた生徒指導や実践的キャリア指導につなげたい。(◎)</p>

府立西成高等学校

進路を切り開く確かな学力の育成	<p>(1) 「めざす西成高校授業像」を確立し授業力向上を図る。 ア 授業アンケートを活用した授業改善の推進と本校独自の「西成授業改善プラン」を策定する。</p> <p>(2) キャリア教育、人権教育等総合的な進路計画を立案する ア これまでのチャレンジ等の取り組みをさらに充実させて「産業社会と人間」の研究も含めた進路指導計画を策定する。 イ 外部団体との連携及び人材を活用して、主体的に進路選択ができるよう様々な機会を設定する。</p>	<p>(1) ア、6月と11月に授業アンケートを実施しアンケート結果をもとに授業改善を進める。また、NACにおいて前半期にまでに「西成授業改善プラン」を策定する。</p> <p>(2) ア、校内改編PTの総合学科部やNACでの検討を進めるとともに、他府県の先進的な取り組み校への視察を行い、参考プランの研究、試行等を行い進路指導計画の素案を年度内に策定する</p> <p>イ Cステップとの連携による、年間通じての自立支援コース生や配慮の要する生徒のインターシップや中小企業家同友会からのキャリア教育支援として、各企業の代表者の方を招いての講演や交流会の開催等を行い連携を深める。</p>	<p>(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成25年度肯定感61%から70%をめざす</p> <p>(2) アイ生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成25年度肯定感71%から80%をめざす</p>	<p>(1) ア、授業アンケートは6月に1回実施、2回目を1月に実施している。前半期までに「西成授業改善プラン」は策定できずで、2回目のアンケート結果を踏まえて年度末までに基本西成授業改善プランを策定する。改編スケジュールとの管理がまずかつたので次年度はこの基本プランをもとに早急に着手する。*26年度肯定感72% (△)</p> <p>(2) ア、ES・学びなおしを含めた総合学科の教育課程やエンパワタイムの授業計画は概ね完成したが、他府県や他校の実践的取り組みを取り入れてさらに研究を充実しより良い計画を作成する (○)</p> <p>イ、Cステップとの連携強化によって自立支援コース生や配慮を要する生徒の支援の充実が図られた。また、3年連続しての中小企業家同友会との連携による、実践的キャリア教育を含めた講演会や交流会が実現し、参加した生徒の85%の生徒が役立ったとのアンケート結果が得られた。 *26年度肯定感77% (○)</p>
規律・規範の確立と豊かな心の育成	<p>(1) 規範意識やモラルの醸成を高める取り組みを推進する。 ア 公共のマナールールを守るなど規範意識の醸成を図る。</p> <p>(2) 学校行事や部活動を通じて互いに信頼し尊重できる人間関係構築を図る。 ア 生徒会活動、学校行事、部活動など活性化させる。</p> <p>(3) 人権教育、シチズン教育を充実させる。 ア 人権意識向上を目的に、総合学科への改編も含めて、3年間を見通した人権教育、シチズン教育を推進する。</p>	<p>(1) ア 教員による毎朝の正門での登校・挨拶指導に加えて、生徒会や部活動部員による「挨拶運動」及び「地域清掃活動」を実施する。</p> <p>(2) ア 部活動紹介、部活動体験会の充実や「西成教育フェスタ」での地元中学校招いての大会を開催する。また、リーダー研修会検討や校内合宿を推進する。</p> <p>(3) ア 人権教育推進部を中心に、これまでの西成高校人権教育の実践を基盤に、総合学科部・学年・進路指導部との連携を深めて人権教育計画を策定する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目で平成25年度肯定感57%から70%をめざす</p> <p>(2) ア 平成25年度部活動の入部率20%から平成26年度30%をめざす</p> <p>(3) ア 生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切に、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成25年度肯定感71%から80%をめざす</p>	<p>(1) ア 教員による毎朝の正門での登校・挨拶指導は年間通しての実施となった。生徒会や部活動部員による「挨拶運動」は年3回、「地域清掃活動」も地域住民の方と共同で実施できた。さらに活動範囲を広めるなど地域の方々と十分な協議を進める *26年度肯定感70% (◎)</p> <p>(2) ア 部活動紹介、部活動体験会の充実や「西成教育フェスタ」での地元中学校招いてサッカー大会は8校から12校と増加し、地元全6中学校が参加して活性化した。また、2・3年生や教員全体の取り組みから入部率は35%に達した。次年度は活気ある学校をめざしてさらに活性化させたい。(◎)</p> <p>3) ア 策定した人権教育計画を、これまでの西成高校人権教育の実践を基盤に、ユニバーサルデザインと人権教育を中心に再構築させる。 *26年度肯定感80% (○)</p>

府立西成高等学校

<p>地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 地震や津波対策を含めた防災計画の精選、危機管理体制を再構築する。 ア 地震や津波に対する新たな行動マニュアルを策定する。 (2) 生徒支援(教育相談)体制を充実させる。 ア 課題を抱えた生徒や保護者に対して、適時・適切な指導体制の確立と外部団体等との連携協働体制をつくる。 イ ケース会議や連絡協議会に参加し、支援を強化する (3) 広報活動を活性化させ、信頼される学校づくりを推進する。 ア 中学校等への広報活動を充実させる。 イ 地元中学校との連絡協議会の開催を継続し、連携を深める。 ウ ホームページの更新スピードをアップさせ、情報発信を強化する。 エ 第8回「西成教育フェスタ」を充実させ西成区地域社会教育力向上をめざす</p>	<p>(1) ア平成25年度末に本校の立地条件から府教育委員会から地震対策校となった。教育委員会等の指導・助言のもと地震及び津波に対する行動マニュアルを策定する。また、地震及び津波を含めた防災避難訓練を実施する。 (2) アイ生徒支援委員会に各学年や各委員会からの情報を集中一元化させ適時・適切に対応する。 (3) アイ 入学前・各学期のテスト期間や長期休暇中の機会に中学校訪問の実施及び連絡協議会を開催する。 ウ ホームページのリニューアルと最低週1回の更新をめざす。また、学校メールマガジンの発信件数増をめざす。</p>	<p>(1) ア(2)アイ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成25年度肯定感57%から70%をめざす。 (3) ア 中学訪問件数年間のべ300件をめざす。 イ、26年度末に地元中学校約20校に対して広報活動や本校の取組みについてのアンケート調査を行い、具体的広報活動や取組みを改善する。 ウ 学校教育自己診断で「西成高校はホームページで情報伝えている」保護者の肯定感70%をめざす。 エ 第8回教育フェスタ観客者によるアンケート肯定感100%をめざす。</p>	<p>(1) ア、教育委員会等支援から地震を含めた防災計画及び行動マニュアルが策定することができた。大阪880万人訓練と同時に避難訓練も実施することができた。次年度防災グッズ(大阪市)の設置場所(農場内)や地元住民の方々と配慮を要する生徒の防災訓練を計画する。(○) (2) アイ生徒支援委員会によりカフェの参加を確立して、情報の共有と一元化がなされ迅速かつ丁寧な対応が可能となった。ESスタートと同時にSSW配置と連携強化を含めた体制作りを努めたい *26年度肯定感67%(○) (3) アイ中学校訪問はのべ400件をこえている。広報に限らず課題のある生徒の支援のための中学校訪問連携も200件をこえている。例年3月末に実施する支援充実を目的とした中学校訪問には、本校の取組みや広報についての調査も実施する予定である。(◎) ウ、学校HPは5月に刷新した。また、2学期よりHP作成新ソフトも購入してより「見やすい」HPをめざしているが、更新スピードや学校メールマガジン発信などは迅速的に実施できていない。 *26年度肯定感68%(△) エ、新しい発表もあり、成果がしっかりと伝えられた結果、当日参加された方のアンケート結果では、「参加してよかった」と答えた方が100%であった。(◎)</p>
<p>学校運営組織の再構築</p>	<p>(1) エンパワーメントスクール(総合学科)への改編を見据えた学校運営組織を再構築する ア 校務分掌体制の再構築及び責任・権限を明確にする職務体制を確立する。</p>	<p>(1) ア平成25年度末に再構築させた組織体制について、1学期末に精査して27年度に向けた再編成を2学期に検討する。</p>	<p>※1~4までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率10%未満をめざす。</p>	<p>(1) ア組織体制は、2学期末に再編成した。具体的行内体制を確立させてより実践的体制を構築する必要がある。 *26年度末中退率10%未満は厳しい状況(△)</p>